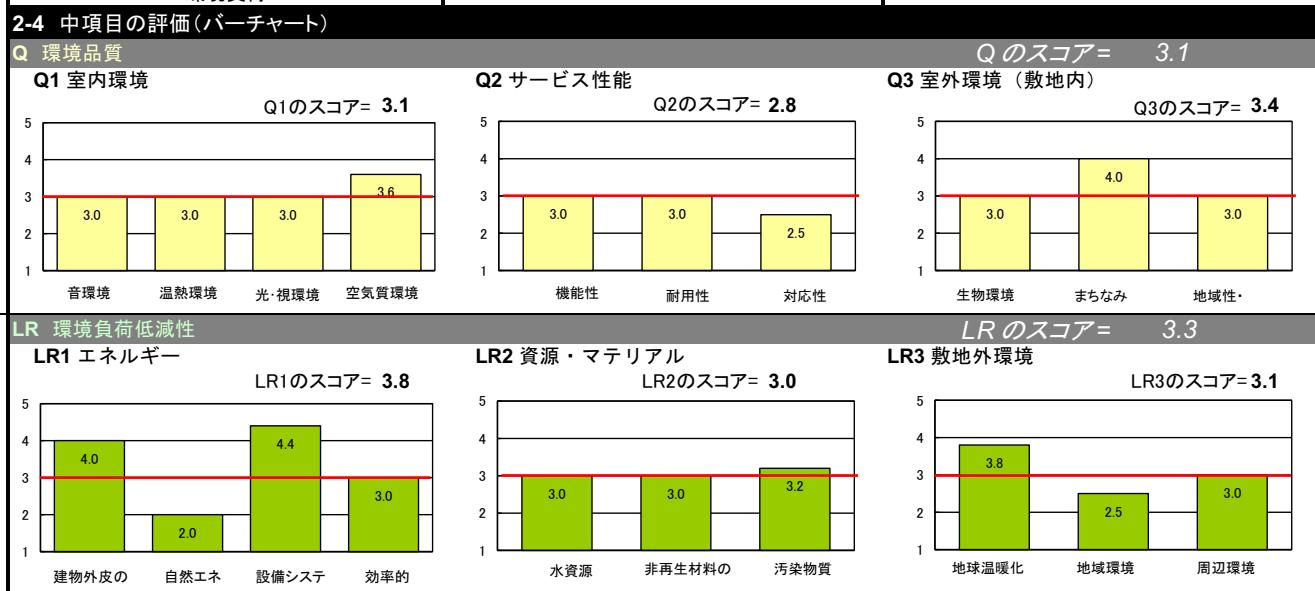
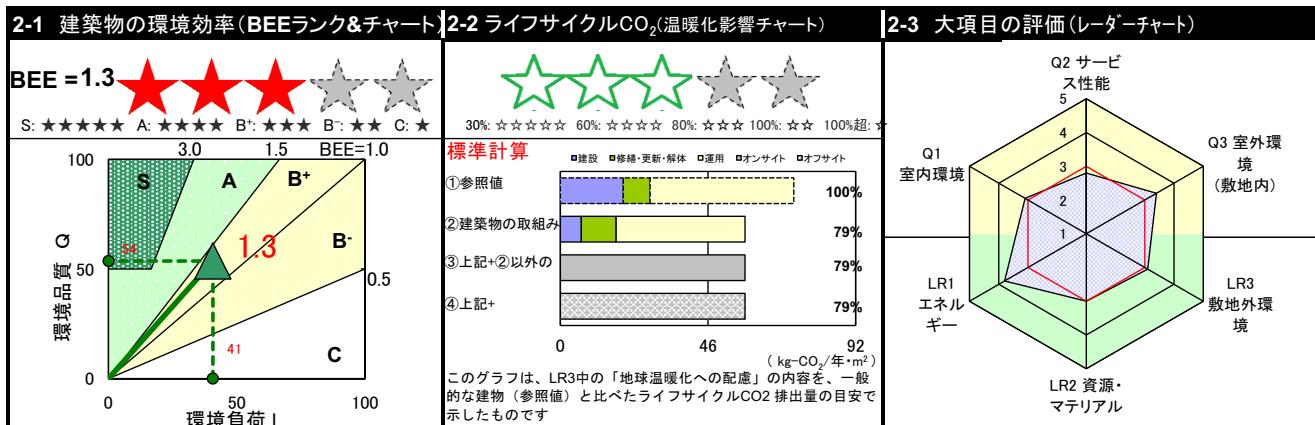


# CASBEE® 名古屋

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新規)2016年版、名古屋市建築物環境配慮促進制度運用マニュアル2016

使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東区白壁4丁目計画	階数	地上6F地下1F
建設地	名古屋市東区白壁4丁目83番	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域	平均居住人員	82 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年6月2日
敷地面積	1,130 m <sup>2</sup>	作成者	2020年6月2日
建築面積	635 m <sup>2</sup>	確認日	2020年6月2日
延床面積	3,449 m <sup>2</sup>	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合		その他
白壁筋という名古屋有数の高級住宅街の景観を崩さないように、マンションらしさを取り除き、道路面に対してボリュームを押えた建築とした。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
開口部にはLow-E複層ガラスを採用することで高い断熱性能を確保し、快適な住環境としている。また、シックハウス対策として全面的にF★★★★を採用している。	建物を長期利用できるように日本住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3を確保している。また、階高を確保することで広々とした天井高を確保している。	10%以上の緑化を行った。道路面にはみ出るように中木、高木を植栽することで近隣にも配慮した。南側にはできるだけ既存樹木を残し、さらに高木や中木を植栽することで、豊かな住環境を作ることを心掛けた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮性能は日本住宅性能評価表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4を満たし、一次エネルギー消費性能についても建物全体のBEIが0.88。	節水コマや節水型便器の採用により環境負荷低減に寄与する。	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率が一般的な建物（参照値）と同等。ディスポーザーを設置し生ごみの軽減を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

## 重点項目スコア・結果シート

(仮称)東区白壁4丁目計画

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>1. 温暖化対策</b>			<b>3.6</b>
LR1 エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	3.8	0.1	
LR3.2.2 溫熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
<b>2. 自然共生</b>			<b>3.1</b>
Q3.1 生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上 まちなみ、景観への配慮	有	0.009	
Q3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
<b>3. 循環型社会</b>			<b>3.0</b>
LR2.1 水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.3	0.01875	

## 結果

### 1. 温暖化対策

評価点 = 3.6



### 2. 自然共生

評価点 = 3.1



### 3. 循環型社会

評価点 = 3.0



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。